

OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students



プロフィール (Profile)

氏名	T.T.
所属	工学部 情報工学科
学年	1年
留学先	フランス語海外語学研修 A (トゥーレーヌ語学院)
留学期間	2023/3/4~2023/3/27

留学レポート Study Abroad Report

【留学をしてみようと思ったきっかけ】

留学をしてみようと思ったきっかけは、自分の普段慣れ親しんだ環境と大きくかけ離れた環境に体験してみたかったからです。大学の初修外国語で、フランス語を1年間週2で学びました。それで今回の語学研修について知って、せっかく一年間学んだフランス語を実際に使ってみるいい機会だなと思いました。中国には行ったことがあるのですが、今回フランスに行ってきた感想として、同じアジア圏ということもあってか雰囲気などは日本と中国は似ていて、フランスは大きく離れているなと感じました。

【プログラムの流れと振り返り】

まず、関空から15hかけてパリのシャルル・ド・ゴール空港に向かいました。飛行機の中は映画を見たり寝たり快適でした。ただ、wifiが無かったり充電ができなかったりするの、スマホを使うことはあまり期待しない方がいいです笑。なので本とか、ある程度やることを考えて用意して機内の持ち込んだ方がいいです。ぼくは言語が通じるか馴染めるか不安でしかなかったの、フランス語の会話集を持って行っていました。

到着した次の日の夕方に、今回の語学研修の語学学校となるトゥーレーヌ語学院のあるトゥールという都市に専用車で送っていただきました。それまでは、さとうさんという現地のスタッフの方にパリ市内の観光に連れて行っていただきました。行きたいところは事前に公立大でパンジエ先生を通してさとうさんに伝えていただくと行きたいところに連れて行ってくださいます！そのおかげで、ぼくらは少ない時間でルーブル美術館、エッフェル塔、凱旋門を回ることができました。フランスに行ったらばかりで勝手に分からないので、さとうさんにはいろいろなことを質問させていただき教えていただいて本当に助かりました。

研修のほとんどの時間を過ごすトゥールという都市は、パリからTGV(新幹線みたいな)で1,2時間のフランスの田舎町のような町です。トゥールは日本でいう京都みたいな存在で、イメージするような昔ながらのフランスっぽい町並みです。三週間、午前中に授業があって午後はフリーでした。最初の週は、研修と一緒に参加したみんなでいろいろなmission(町を探索するとかのアクティビティ)に取り組みました。そこで、一緒に来たみんなと仲良くなれて、現地の大学生や高校生とも知り合うきっかけになるmissionもあったので、友達ができるか不安だった自分はめっちゃ助けられました。

授業は内容自体は日本でやるようなことと変わらず、英会話教室みたいな感じのイメージでした。5人ぐらいの少人数のクラスで、いろいろな国の人がありました。彼が特別に自由人だったからかもしれないんですけど、先生と話すときに急に席を立って勝手に黒板使ったり、授業が休憩時間に差し込むと「Pause(きゅーけい)！」て叫んだり、いい意味で僕らと違って全く遠慮がなく、自己主張できているクラスメイトが一人いました。それは彼に限らず、みんな自分の疑問があれば普通に先生の話の遮ってでも質問します。そういえばフランスは個性が尊重される国だということを思い出して、実際確かに悪いことでなければ、どんなことをしても個性として受け入れられるような雰囲気でした。協調性というか、周りをちゃんと見て常識的なことをする日本とこんなにも違うんだなと感じました。よく周りの目を気にしすぎて変に遠慮してしまう自分にとっては、最初は驚いて、何なら共感性羞恥すらあったんですけど、だんだん気を遣わなくてよいその雰囲気に居心地がよく大好きになりました。

その雰囲気のおかげもあってか、いい意味で緊張感がなく、コミュニケーションのハードルも低かったです。カフェのテラスにいる人に通行人がしゃべりかけたり、ぼくも何回かしゃべりかけられました。予想なんですけど、しゃべりかけられても変に思わず基本的に無視はしないからしゃべりかけやすいんだと思います。日本は町中で人に話しかけるのはちょっと変な目で見られる気がするのですが、そういう違いがあるからかみんな想像以上にしゃべりかけてきます。その緩い雰囲気が居心地がよくて好きです。ただ、たまにフレンドリーを装った知能犯のスリがいるらしいので気は抜いてはいけません笑。



昼ご飯はパン屋さんとかで買って食べるのが多いらしく、ぼくたちもそうしました。本当に50mごとにパン屋さんがあると言っても過言ではないほど、大量にパン屋さんがありました。キッシュとかカヌレとか色んなフランスっぽいパンがたくさんありました。バゲットはマジで堅いです。バゲットの種類も大量にあって、しかも物価の高いフランスなのに安い。サンドイッチも縦に半分に切ったバゲットでサンドしてたり、レストランとかではバゲットが出されておかわりし放題で、バゲットが本当に主食なんだなと気づきました。パンは全体的に、形容しがたいですが日本とはちょっと違って本場って感じでした。写真は学校の近くにあるモンスター広場ってところです。いろんなレストランやカフェがあって、晴れの日には多くの人々がテラスで賑わっていました。



ホームステイ先にはマダムとムッシュ以外に留学生が3人いました。一緒に行った友達のホームステイ先でもそんな感じらしく、留学生が自分以外にいることはわりとメジャーな気がします。僕の場合フランス語が全然できなくて、マダムとムッシュはフランス語しかしゃべれず、初日の部屋の説明は9割くらい会話をエアプレイしていました。わからないことは聞くってことを意識してたんですが、その次元じゃなかったです笑。でも、夜ご飯の時とかの普段の会話で、一度にそこまでの会話量がないときは、分からない単語とか表現を会話が切れたタイミングで質問すれば、勉強できますし、いい話の話題にもなっておすすめです！他の留学生はけっこう年が近いです。やっぱり前にも書いたフランスの雰囲気の通り、みんなフレンドリーで、しゃべったり誘ったりしやすい雰囲気です。なんで、自分から誘うのが恥ずかしかったら「土日やることないんだよねーおすすめのやることある？」みたいに聞いたら結構の確率でカフェとかに誘ってくれます笑。写真は僕の部屋です。

土日は、パリに行ったり、近くのロワール川沿いにはたくさんのお城があるのでお城めぐりをしたりしました。ただ、日曜日はほとんどの時間お店が閉まっているので、美術館行くとかカフェに行くとか散歩するとかあらかじめやること調べて決めておかないと、何もできずに終わります。

帰国は飛行機に乗る二日前にトゥールからパリに移動して、一日前はパリの自由散策でした。荷物は一週間前からちょくちょく整理ぐらいはしといた方がいいです。じゃないと僕みたいに帰る間近に熱を出して、トゥールを発つ前日の夜に荷物の整理を始めるという地獄を見るかもしれません。ぼくらの飛行機はスーツケース2個までそれぞれ23kgまででした。運ぶのが大変ですけど、お土産案外かさばって2個の方が結果的にはよかったです。スーツケース1個だけしか持って行っていなかった友達は、超過しそうで荷物整理にめっちゃ困ってました。

